

『苦しい時こそ、ユーモアを取り入れて』

居場所、味方、誇りに加えて「想像力」と「度胸」が加わりました。えにしの会の起点から 25 回を迎え、ゆきさんの軌跡を垣間見させていただき、その『想像力と度胸』はどこから生まれているの？と思った圧巻の 90 分のご講義でした。

クリスマス伊間際のこの時間、松原葉子さんが奏でたリードオルガンの音色を思い出しています。飯野順子先生の亡妹さんの@を使って打つアートも素晴らしかったです。足の指で？本当にびっくりです。

前期、後期とご登壇いただいた講師の皆さまのご講話を思い出しながら、この 9 か月を振っていました。おかげさまで、多くの学びがありました。

今回のゆきさんのご講義では、『病院職員に拘束を体験してもらった』調布東山病院の報告は印象的でした。大熊一夫さんの『母をくらないでください』『ルポ老人病棟』を拝読しました。1988 年の出版から非人道的医療現場の闇を書籍の中でこうして公表しても改革がなかなか行われないもどかしさがあります。田中とも江さんと吉岡充さん共著の『縛らない看護』にしても介護保険が始まる 1999 年に初版が出ています。医療現場で患者の安全のためと言いつつ、患者の尊厳が奪われ、二次障害を残すことに繋がる『縛る行為』が、なぜに無くならないのか、本当に無念です。

でも、こうした私のような愚痴や泣き言では世の中は変えられない、と話されたエーバルト・クローさんの『世直し 7 原則』は、身につまされる思いがしました。一つ一つが『なるほど』と頷けます。大きな社会問題だけではなく、日々の生活の中でも大切であり、取り入れるべきことだと感じました。そういった日常から、『世直し 7 原則』に意図的に取り組んで、社会の『世直し』を行える土壌を作っていきたいと思います。ユーモアで切り返せるくらいの心の余裕も必要ですね。前例を超えて挑戦する人々からは、まだまだ力及ばずですが、少しでも近づけられるよう心身と脳を鍛えたいと思います。今後とも、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

新井聖子 25s2002